

玉名市学校規模・配置

適正化基本計画



全国的な少子化が玉名市でも顕著に見られ、学校規模も縮小化してきたことから、玉名市では、教育機会の均等と教育水準の維持向上を図るため、平成24年に「玉名市学校規模・配置適正化基本計画（第1次計画）」を策定しました。そして、その「第1次計画」の期間満了に伴い、令和4年6月に次の10年の計画である「第2次計画」を策定しました。



玉名市は平成17年の市町合併により小学校21校・中学校6校となり、地域の実情に応じた教育を行っていましたが、少子高齢化の進行に伴い児童生徒数の減少が進み、多くの学校が小規模校となっていたため、平成24年10月に「玉名市学校規模・配置適正化基本計画（第1次計画）」を策定し、当該計画に基づき学校の適正配置を目指してきました。この第1次計画では、玉名市における適正な学校規模の基準を定めるとともに、中学校区を範囲とし、まずは小学校の学校規模の適正化を進め、同時に「小中一貫教育」を推進するとしました。この計画期間中、平成30年4月に6つの小学校を、そして令和2年4月に2つの小学校を統合。現在の小学校数は15となっています。

この第1次計画の期間は平成24（33年度）（令和3年度）までの10年間としており、今般の期間満了に伴い、次の10年間の計画である第2次計画の策定に向け、玉名市学校規模適正化審議会を令和2年11月に設置し、全7回の協議を経て、令和4年1月26日に同審議会から玉名市教育委員会に対して建議をいただきました。

玉名市教育委員会は、この建議をもとに第2次計画を策定し、引き続き、学校規模・配置の適正化を進めていきます。適正化の大きな目的は「子どものための教育環境の整備」であり、かつ「地域の実態に応じた統合による」コミュニティの拡大も併せて進めることにより、玉名市の教育理念である「生涯を通じて未来を拓く、地域と国際社会に貢献する」かがやく「一人ひとり」につながるものと考えます。

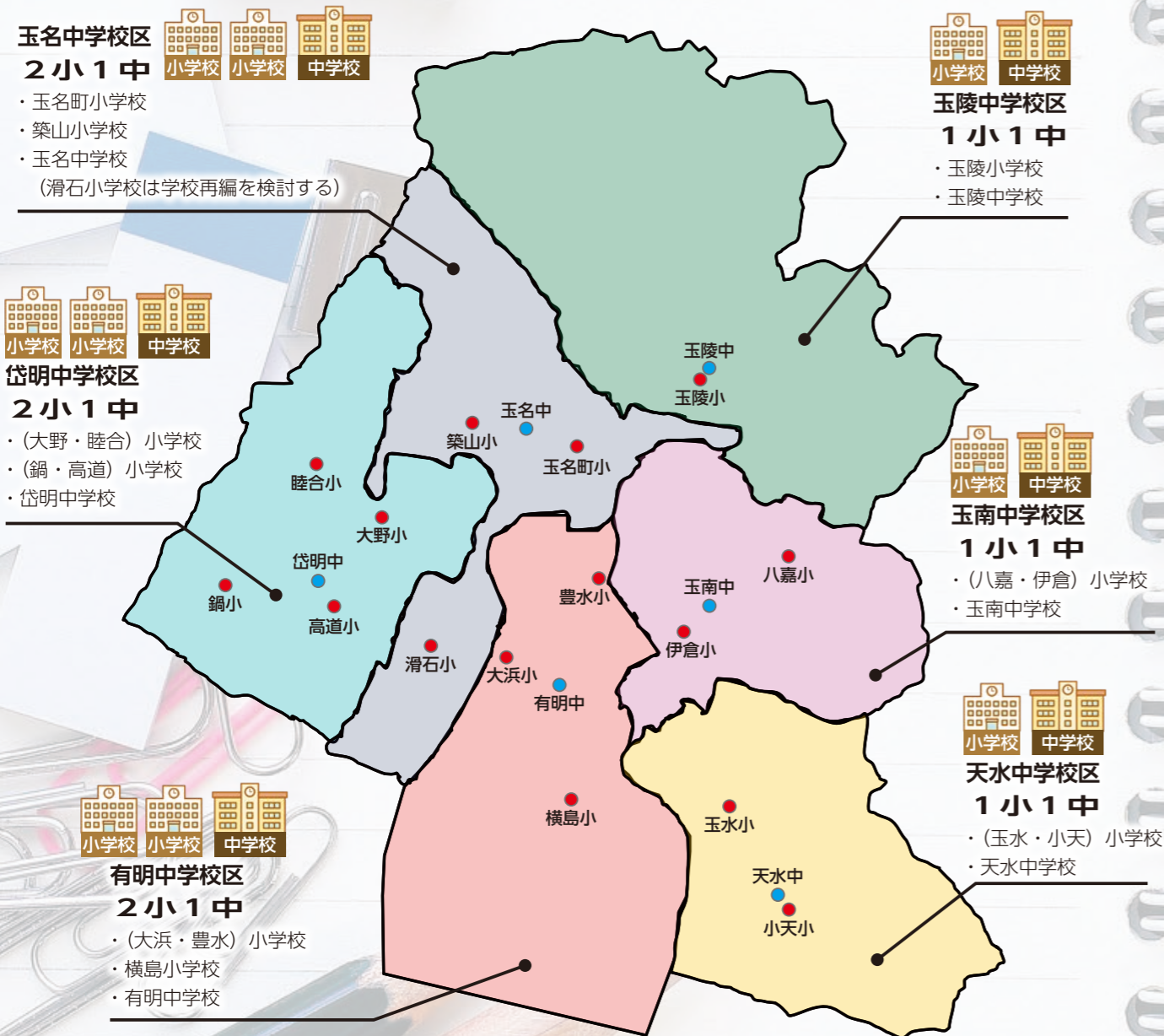
本計画により、今後も学校規模・配置の適正化を進めるとともに、引き続き、義務教育の9年間を見通した上で、小学校と中学校が「目指す児童・生徒像」を共有し、互いに連携・協力しながら、小中一貫した教育に取り組んでいきます。

玉名市教育委員会

学校再編の優先度

高
優先度
低

優先度の区分	中学校区名
高	有明中学校区 (大浜小学校・豊水小学校)
	天水中学校区 (玉水小学校・小天小学校)
優先度	岱明中学校区 (鍋小学校・高道小学校)
	玉名中学校区 (滑石小学校)
	玉南中学校区 (八嘉小学校・伊倉小学校)
低	岱明中学校区 (大野小学校・睦合小学校)
	有明中学校区 (横島小学校)
低	玉名中学校区 (玉名町小学校・築山小学校)
	玉陵中学校区 (玉陵小学校)



小学校の望まれる学校規模基準

1学級の人数	1学年の学級数	学校の学級数
20～30人	2学級以上	12学級以上

統合後に「各学年2学級以上」が見込めない場合においても「学級20～30人」の確保は必要とされます。
 ※1学級の学級編制を35人としています。

(2) 学校の適正規模の考え方

(1) 「子どものための教育環境整備」の観点を第一に
 より良い教育環境を等しく提供すること、より望ましい学習集団の中で教育活動が行われることを第一に考え、「切磋琢磨できる教育環境」の実現を目指します。

1 適正化の基本的な考え方

(3) 全市的な視野に立ち、適切な優先順位に基づく学校規模適正化の推進
 ・玉名市を6つのゾーン(※5(下段参照))に分けた中学校区単位での推進を図ります。

取り巻く社会的、歴史的な背景に留意し「地域アイデンティティ(郷土意識)」を尊重した推進を図ります。

2 再編計画

(1) 計画期間
 令和4年度から令和13年度までの10年間(おおむね5年を目的に、必要に応じて計画の見直しを行います)。

(2) 計画方針
 ◆「第1次基本計画」の考え方は、基本的に踏襲します。まず、小学校の規模適正化を進めます。小中一貫した教育を推進します。玉名市を6つのゾーンに分けた中学校区で進めます。小規模校、特に複式学級を有する学校から順次検討します。

(4) 地域の実態を踏まえた学校の適正配置の推進
 ・学校再編による「コミュニティの拡大」という考えを進めます。
 ・合併前の旧3町(岱明・横島・天水)については、学校を

(6) 地域と学校の連携・協働の一層の推進
 ・「小中一貫した教育」を一層推進します。
 ・「地域の教育力」の活用、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の充実とともに地域学校協働活動を推進します。

(5) 子どもたちの通学要件、地域性への配慮
 ・通学時間など、子どもたちの心身に与える影響や、地域の特性などには可能な限り配慮します。
 ・子どもの心身の発達、「運動能力・体力づくり」の観点から、スクールバスなどの導入に当たっては、通学距離・通学時間などについて十分に検討します。

◆旧3町(岱明・横島・天水)の地域コミュニティに留意し学校再編を進めます。◆施設環境の整備の視点も踏まえて学校再編を進めます。



◀昭和50年から令和4年までの玉名市の児童数の推移です。3,172人の減(48.8%の減)となっています。

(出典：学校基本調査)